

1 開催概要

平成30年10月25日から26日まで、外務省は高知県との共催で駐日各国大使の高知県視察を実施しました。儀典官室では、1988年以降ほぼ毎年度地方自治体と連携して地方視察を実施しています。

2 参加者

駐日各国大使(夫妻) 14か国16名

(ミクロネシア、エルサルバドル、トンガ、パラオ、サモア、コソボ、コロンビア、パキスタン、エジプト、ホンジュラス、リトアニア、イラク、モルディブ、ニカラグア)

3 訪問日程

10月25日(木) 竹林寺、高知城歴史博物館、紙産業技術センター、紙の博物館、司牡丹酒造、
県知事主催歓迎夕食会

10月26日(金) 中土佐町津波避難タワー、久礼漁港、儀典長主催昼食会、(株)高知丸高、
種崎地区自主防災組織

4 各視察先の概要

<第1日目>

(1) 竹林寺(高知市)

社に包まれた早朝の静謐な雰囲気の中、お遍路でも著名な寺で、住職から説明を受けました。また、美しく歴史ある建築、荘厳な雰囲気を堪能し、鐘撞きも体験しました。地元 TV によるインタビューも入り、御せったいなどのおもてなしの精神についても触れることができました。



(2) 高知城歴史博物館(昼食)

高知城を間近に臨む高知城歴史博物館内のテラスで、館長を囲み館内所蔵品などの説明を受けながら軽食をとりました。

(3) 紙産業技術センター(吾川郡 いの町)

仁淀川の清流を利用して古くから紙の作成技術が発達した町で、紙産業技術センターを訪れました。高知県が誇る最先端技術をもつ同センターは、国内はもとよりルーブル美術館など海外からも依頼されるほどの高度な分析技術を駆使して文化財修復に貢献するほか、電解コンデンサや不織布など、高知県内のオンリーワンのものづくりを掲げ、県内製紙業の付加価値を高めているとの説明に、自国で盛んな紙産業を持つ大使は勿論、他国の大使方も大変強い関心を示して視察していました。



(4)いの町 紙の博物館(吾川郡 いの町)

美しい土佐和紙や紙の原料・昔使われていた用具などが所狭しと展示されている博物館で、館長やスタッフによる指導の下、大使一行は仁淀川が運ぶ澄んだ冷たい水に手を浸して紙漉き体験に挑戦しました。また、古い歴史と美しく多彩な質感をもつ土佐和紙に、大使方は感嘆しつつ見入っていました。



(5) 司牡丹酒造(高岡郡佐川町)

文教の街であると同時に、仁淀川の透明で清らかな水の恵みを受けて発展した酒造りとその街並みは、白い土塀が趣きを添えて美しく、ちょうど新酒の仕込みが始まった蔵内を大使一行は杜氏の解説に沿って発酵過程などを見聞しました。日本屈指の名水の地である仁淀川の美酒が生まれた歴史や酒造工程、高知の日本酒文化に耳を傾け、高まる日本食人気を支える、豊かな自然の恵みがもたらす酒類文化の豊富さを実感している様子が見てとれました。



(6) 県知事主催歓迎夕食会(高知市)

尾崎高知県知事先導による入場及び歓迎挨拶に始まり、よさこい舞踊団のパフォーマンスに大使一行も加わるなど、高知流の賑わいあるおもてなしを受けました。県側来賓と大使一行との積極的な懇談・交流の場として、話題は各視察先や各国と高知県・各市/町とのつながり、観光・ビジネス促進等多岐にわたり、出席者各人にとり人脈形成につながる貴重な機会になりました。



<第2日目>

(1) 中土佐町津波避難タワー(高岡郡中土佐町)

南海トラフ地震に備え、どの方向から津波に襲われても耐えるように設計された円柱形の津波避難タワーを訪れました。そのタワーは地元住民の安全避難を第一にバリアフリーや備蓄倉庫、簡易トイレや太陽光発電などハード面のみならず、周囲の景観と調和する高いデザイン性でも高評価を得ています。中土佐町長による説明のもと各大使は自らの足で登りました。早朝の風とまぶしい光に包まれた眼下に広がる美しい海から漁業の恵みを受けると同時に、地震・津波災害に向き合うこの地の生活と知恵に、大使一行は自国の事情も念頭に置きながら熱心に視察していました。



(2) 久礼漁港(高岡郡中土佐町久礼)

カツオの一本釣り漁法で有名な久礼漁港を訪問し、持続可能な漁業・水資源保護を目指す高知県の取組を見聞しました。伝統漁法と先端技術の組み合わせや水産資源保護から漁業ビジネス効率化など、多様な取組の解説に大いに関心を示していました。地元漁師から一本釣りの竿振り指導を受けて挑戦した大使もあり、和気藹々としながらも高知の包括的な漁業施策について強い関心をもって聞いていました。



(3) 儀典長主催昼食会(高岡郡中土佐町久礼)

晴れた秋空に恵まれた久礼地区での昼食会は、地元の鮮魚・食材を豊富に用いた食事が供され、参加大使ほか、中土佐町及び県側来賓との意見交換が活発に行われました。目の前に広がる雄大な太平洋を眺めながら終始和やかな雰囲気の中、参加者同士も一段と打ち解け、本視察の内容の濃さ・バランスのとれたプログラムはもとより、各地の歓待、多くの交流と学びの機会を得たことに、参加大使も一層強い感銘を受けていました。



(4) 高知丸高(高知市)

海の恵みを受ける一方で、津波や地震など災害にも直面する高知県は、官民一丸となって防災対策に力を入れています。高知丸高訪問では、防災関連を扱う企業が多数集まり、独自技術や工法、女性防災士考案のナップザック、学校給食用パン工房が作成した保存食など多種多様な製品の説明を聞くとともに展示室を視察しました。自然の脅威に立ち向かうための豊富なアイデアと高い技術、企業の方々の熱意に、大使一行も熱心に耳を傾け活発に質問が飛び交い、防災に関わるビジネスにタイする強い関心が見受けられました。



(5) 種崎地区津波防災検討会(自主防災組織)(高知市)

行政に頼るだけでなく、地域住民自らコミュニティの防災対策の検討・拡大を目的として設立された自主防災検討会組織の方々との対談で、これまでの取組や直面している課題について説明を受けるとともに、参加高校生から英語プレゼンテーションが行われた後、大使一行との率直な質疑応答が行われました。台風や津波・ハリケーン・洪水など自国でも自然災害を抱える国の大使は勿論、他国の大使たちも、コミュニティで支え合う力、災害を予測して対策を練る前向きな姿勢、次世代への啓発に力を入れること、地域主導の努力の重要性に強い関心を示す様子が見られました。



(了)